

連載　（供覧）いはひまつりのみち

宗教は人を殺し、祭祀は人を生かす
世界平和のための祭祀を復興させる

第七回　英靈祭祀

南出喜久治（令和6年12月1日記す）

ちちははと　とほつおやから　すみめおや　やほよろづへの　くにからのみち
(父母と遠つ祖先から皇御祖八百万神への国幹の道)

【英靈祭祀】

英靈とは、前に述べましたとおり、自らの共同体、社会、国家に襲ひかかつた危機に対して命がけで多くの人々と共同社会を守り、あるいは、これと同様に、共同社会の発展に多大な貢献された偉人、聖人などの英靈に対して、感謝を表すためのものです。

英靈祭祀を実践することが人間の自然な発露としての喜びを感じることができます。英靈祭祀は、どこでも行ふことができます。英靈のゆかりの場所や慰靈碑、顕彰碑、銅像等の前で祭祀を行ふことになります。

英靈祭祀とは、本来は、慰靈や鎮魂を目的とするものではありません。顕彰を行つて、祭祀の復興と社会、国家の繁栄を祈るためのものです。大いなる魂を顕彰することに意義があり、決して鎮魂、慰靈を行ふものではないのです。さらに、英靈が行はれた偉業を引き継ぐために、その偉大なる力をお貸しくださいと祈ります。

特に、戦没者を祭る靖国神社などでは、鎮魂・慰靈などは英靈の意志を踏みにじるもので、戦没したことの英靈の無念さを晴らすことができるのは、次の戦争において必ず勝利することしかありません。顕彰によつてその力を授けていただき、それを受け継ぐことによって初めて鎮魂・慰靈となるのです。